

6) 加茂城跡 (第 2 表 No.7)

①立地と概要

これまで加茂城については、その存在が地域の資料である『加茂見聞記』で指摘されていたが、実際に加茂地域の山城跡については調査がされた記録はない。しかし、調査前には城跡の可能性のある箇所が 2 箇所挙げられていた。

1 箇所は集落の北、県道 44 号線沿いの加茂入口より都万方面に 500m ほど行った南側の標高 20 m 程度の山鼻である。この山は地元でジャ山 (城山) と呼ばれており、最も城跡である可能性が高い箇所である。もう 1 箇所は集落の中にある地域の氏神社である賀茂那備神社の裏山の標高 25 m ~ 50 m の一帯、小字名は峯である。

②今回の調査

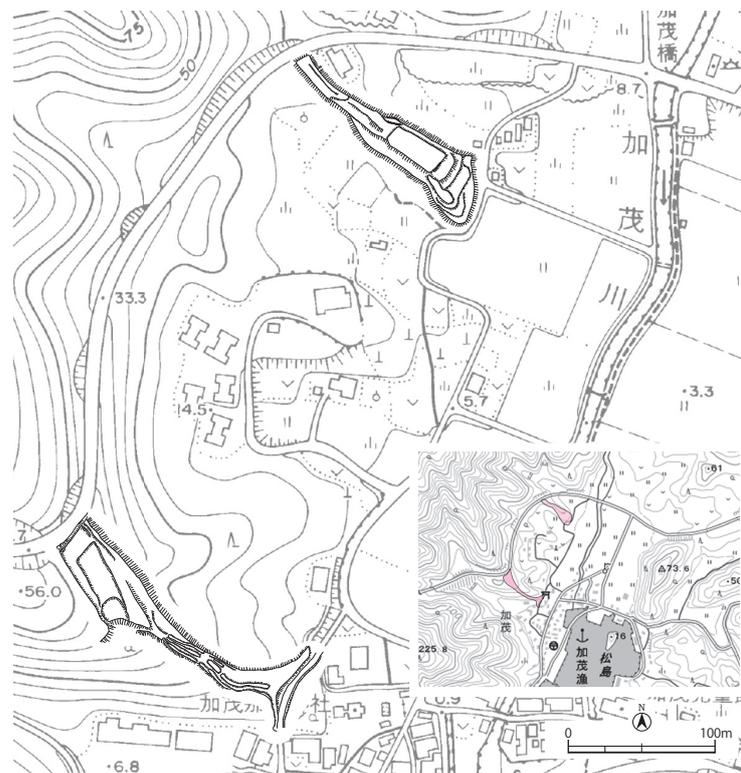
1 箇所目のジャ山は、舌状の緩やかな台地で、頂部は平坦ではあるが曲輪とは言い切れない。周辺も平坦地が造成されているが、遺構であるかどうかは判断が難しい。もう 1 箇所の峯では、県道 44 号から南東に向かって遺構が見られ、南東の神社裏手では豎堀とみられる遺構が数本確認された。

③今回の調査結果を踏まえた所見

今回の調査で、2 箇所に山城跡の可能性を見出したが、どちらも確定するに至っていない。県道 44 号線より高所については調査ができておらず、山頂付近には平坦地があるとのことから、引き続き調査をしていく必要がある。

第 10 表 加茂城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
なし	豎堀



第 9 図 加茂城縄張図

7) 油井城跡 (第2表 No.8)

①立地と概要

油井城は、油井集落の南にある標高 147m の通称殿山にあり、『増補隠州記』に古城跡として記載されている。殿山の西は海であり断崖絶壁となっており、基本的に周囲は急峻な地形である。過去の調査で、曲輪とみられる小規模な平坦地が 3 箇所を確認されている。

②今回の調査

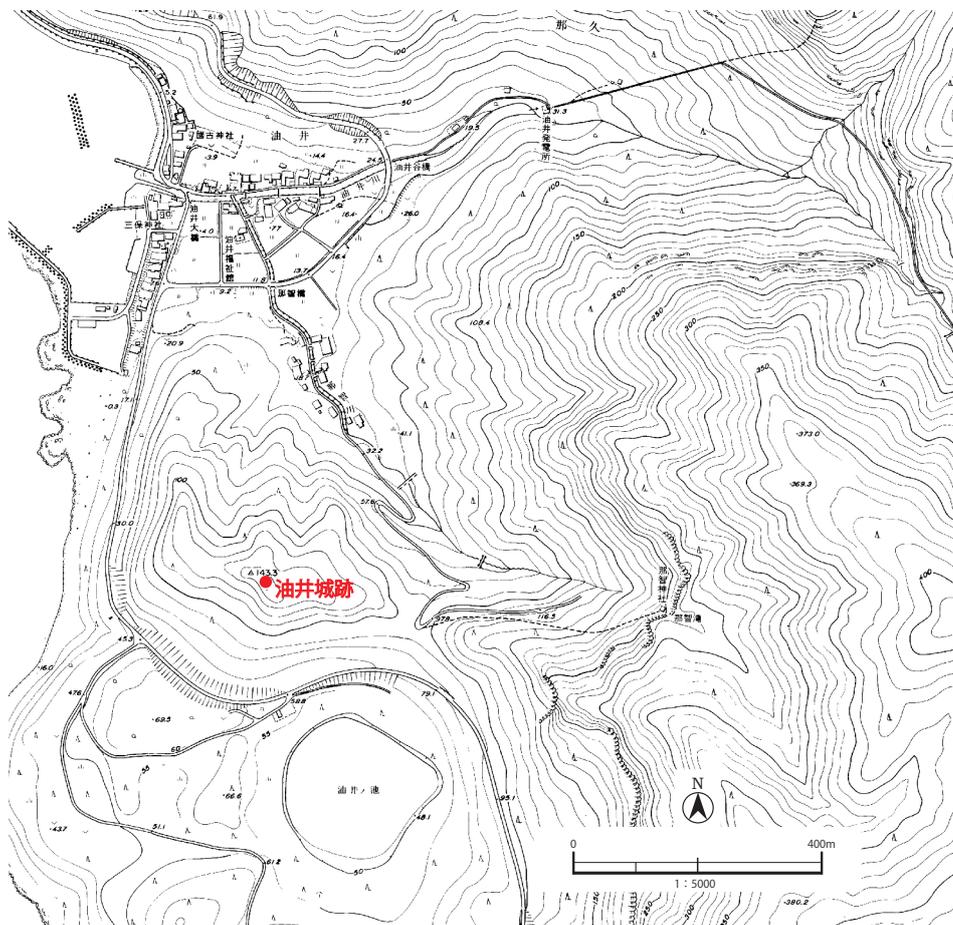
今回の調査では、これまで確認されている平坦地の再確認と、その他の遺構の有無を確認した。3 箇所の平坦地のうち山頂東のものについては、近年の畑利用などによるものとみられ、そのほかについても自然地形である可能性が高く、確実に曲輪と言いつれない。この他、豎堀などの遺構もみられなかった。

③今回の調査結果を踏まえた所見

今回の現地調査では、山城跡であると確定はできなかったが、殿山と呼ばれることや油井城に関する記述もあることから、自然地形のまま利用された可能性も考えられる。引き続き調査が必要である。

第 11 表 油井城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪 (3ヶ所)	なし



第 10 図 油井城位置図

8) ^{コマル}小丸城跡 (第2表 No.9)

①立地と概要

小丸城は、隠岐の島町那久にある旧那久小学校校舎の西の標高約48mの小山にある。『増補隠州記』では、南方にある高尾城についての記述はみられるが、小丸城については記述がない。一帯の字名は小丸。過去の調査で、20m×10mの平坦地が確認されており、土塁や井戸跡、斎藤刑部少輔重基の墓と伝えられる中世墓も確認されている。位置としては、那久地域の2集落、上那久と浜那久の中間地点にあり、地域一帯を見渡せる要所に設置されたと考えられる。

②今回の調査

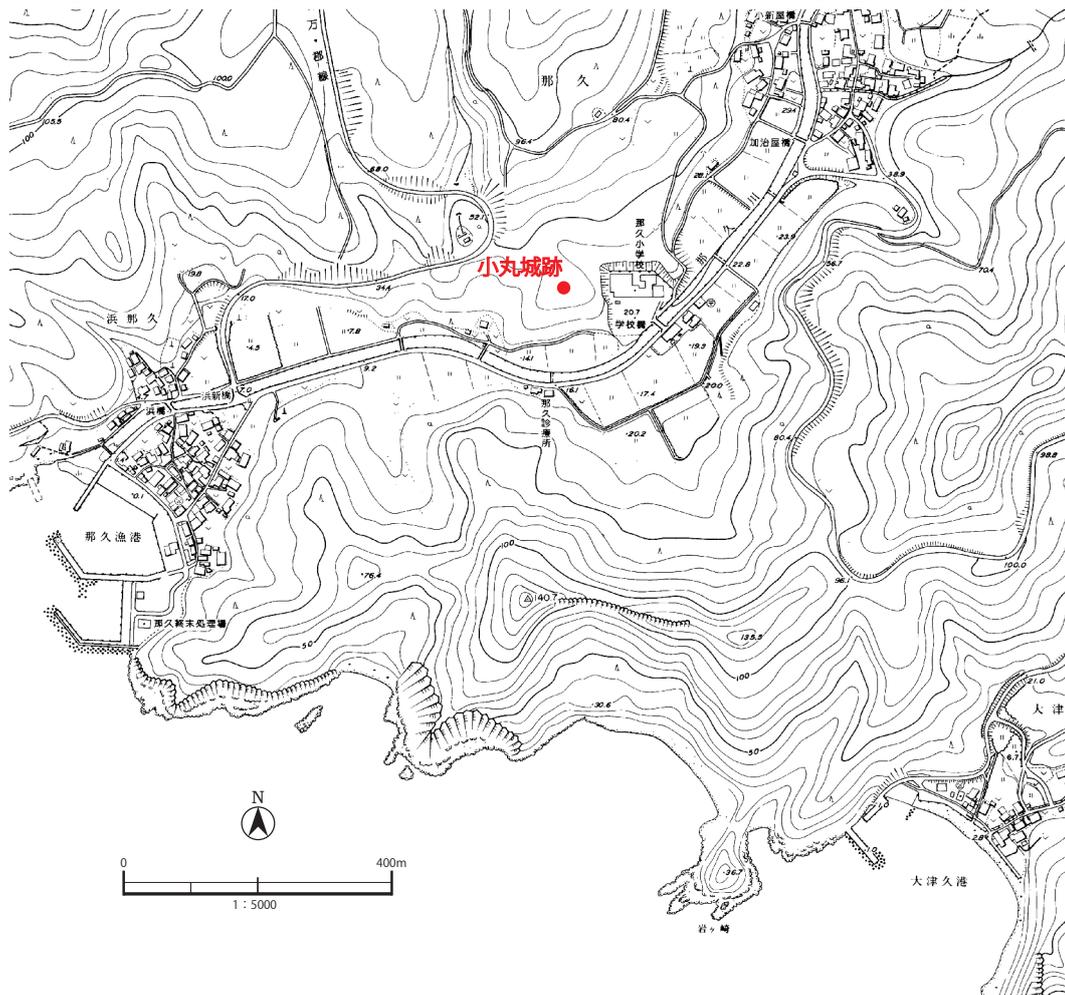
小丸城については、今回は調査を行うことができなかった。

③今回の調査結果を踏まえた所見

近隣に高尾城があり、高尾城とあわせて周辺地域の支配が行われたと考えられる。両城の関係性を念頭に今後調査を行う必要がある。

第12表 小丸城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪、土塁、井戸、中世墓	なし



第11図 小丸城位置図

9) 高尾城跡 (第2表 No.10)

①立地と概要

高尾城は上那久地区と浜那久地区の中間、那久川南方の高尾山(標高 137 m)に位置する。那久川を挟んで北には小丸城があり、この2城で那久地域は支配されていたと考えられる。『増補隠州記』には、下那久の南の山頂に古城の跡があり、齋藤刑部少輔重基の居住についての記載がある。

過去の調査で、山頂とその周辺に曲輪があり、また、山頂の北西には竪堀、山頂から東に続く 300m の尾根の先にも曲輪があり、この尾根を寸断する堀切が山頂付近に確認されている。尾根の南側は断崖絶壁、北側も急峻であり、尾根を通るには非常に細い小道を通るしかない。

このほか、北側の麓には居館跡といわれる平坦地がある。

②今回の調査

今回の調査では、過去に確認された遺構の再確認と南西の海に突出した箇所(箇所)の調査を行った。居館跡については今回の期間中での調査は叶わなかった。

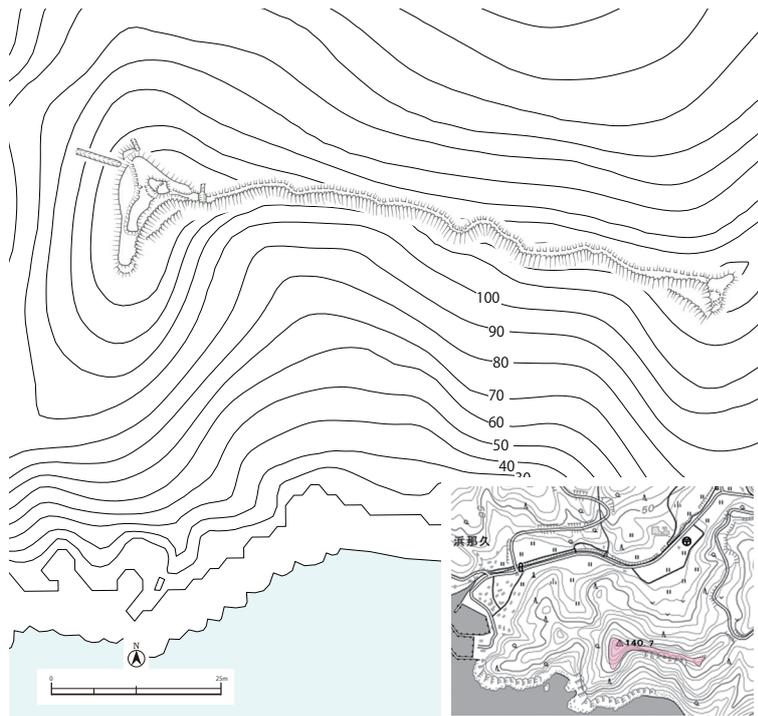
③今回の調査結果を踏まえた所見

過去の調査で確認された遺構はおおむね確認ができたが、山頂南西の突端部は人工的な平坦地はあるものの、実際に山城にかかる遺構かどうか判断できなかった。自然地形を利用し、城の防御や監視にあたった可能性は考えられる。

今後は、居館跡の調査、小丸城との関係性を念頭に調査を行う必要がある。

第13表 高尾城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪、竪堀、堀切	なし



第12図 高尾城縄張図

10) ^{ナモリ}奈森城跡（第2表 No.11）

①立地と概要

奈森城は、都万地区の最高峰高田山から西に続く尾根の西端標高 110m にある。『増補隠州記』には、上里の南東に奈森の古城があり、古くは都万弥次郎という地頭の居た場所であると記載されている。標高 110m に曲輪が作られ、西・北東・南西方向にそれぞれ 1 条ずつ塹堀が掘られている。山頂の曲輪から西へ下った標高 45m の箇所にも小規模な曲輪が置かれている。山頂の東に続く尾根は、堀切により曲輪付近で寸断されている。近隣に堀切という小字名があるが、これは山城の名残と考えられる。高田山の麓にある高田神社の縁起書には高田山にも城が築かれたことが書かれており、その関係性は不明である。

②今回の調査

今回の調査では、調査前の地形図確認で、高田山と奈森城の間の愛宕山に堀切のような箇所が確認されたため、過去の調査成果を確認しながら愛宕山の該当箇所まで調査した。その結果、愛宕山に堀切と数段の曲輪を確認した。また、高田山についても山城の痕跡を確認しながら調査した。高田山では遺構等は確認されなかった。

③今回の調査結果を踏まえた所見

今回の調査で、愛宕山についても山城が築かれたことが新たに確認された。奈森城と連動して、都万の港を囲むように城郭が位置していることから、奈森城、愛宕山、高田山を一連のものとして城郭が組まれたと考えられる。高田山はゆるやかな地形であり、自然地形のまま籠る程度に利用されたと考えられる。

第 14 表 奈森城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪、堀切、土塁、石垣	堀切（愛宕山）



第 13 図 奈森城縄張図



第 14 図 奈森城（愛宕山）縄張図

11) 郡城跡 (第2表 No.12)

①立地と概要

郡城跡は五箇地域の郡地区に所在する。『増補隠州記』に、家里から三町ほど南に古城の跡があり、古くはこの城に箕尾尾張守が住んでいたと書かれている。

標高 227m の愛宕山山頂付近は城山などの小字名が残り、いくつかの平坦地がある。山頂の南側と西側に数段の平坦地が続くが、山頂にも狭い平坦地しかなく、そのほかに豎堀や堀切なども認められない。周辺は岩盤が露出しており、はっきりと山城跡と確定できる遺構も見当たらない状況である。

②今回の調査

改めて過去の調査を参考に踏査したが、変わらずはっきりとした遺構は認められなかった。

③今回の調査結果を踏まえた所見

過去の地誌や小字名などからこの愛宕山が山城跡であったと比定できるが、南西方向の標高 135m の位置に小路城跡が確認されているため、小路城跡との関係性を踏まえて郡城について検討を行う必要がある。

第 15 表 郡城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪 (狭い平坦地)	なし



第 15 図 郡城縄張図

12) 小路城跡 (第2表 No.13)

①立地と概要

小路城跡は、郡城の南西標高 135m の位置にあり、郡城と同じく愛宕山上にある。遺構としては、標高 135m の所に狭小な平坦地があり、小路地区の熊野神社から上がる山道の途上に狭い平坦地が散在している。この山道は、尾根を掘って造られており、掘ったことにより山道の両側は土塁状になっている。

②今回の調査

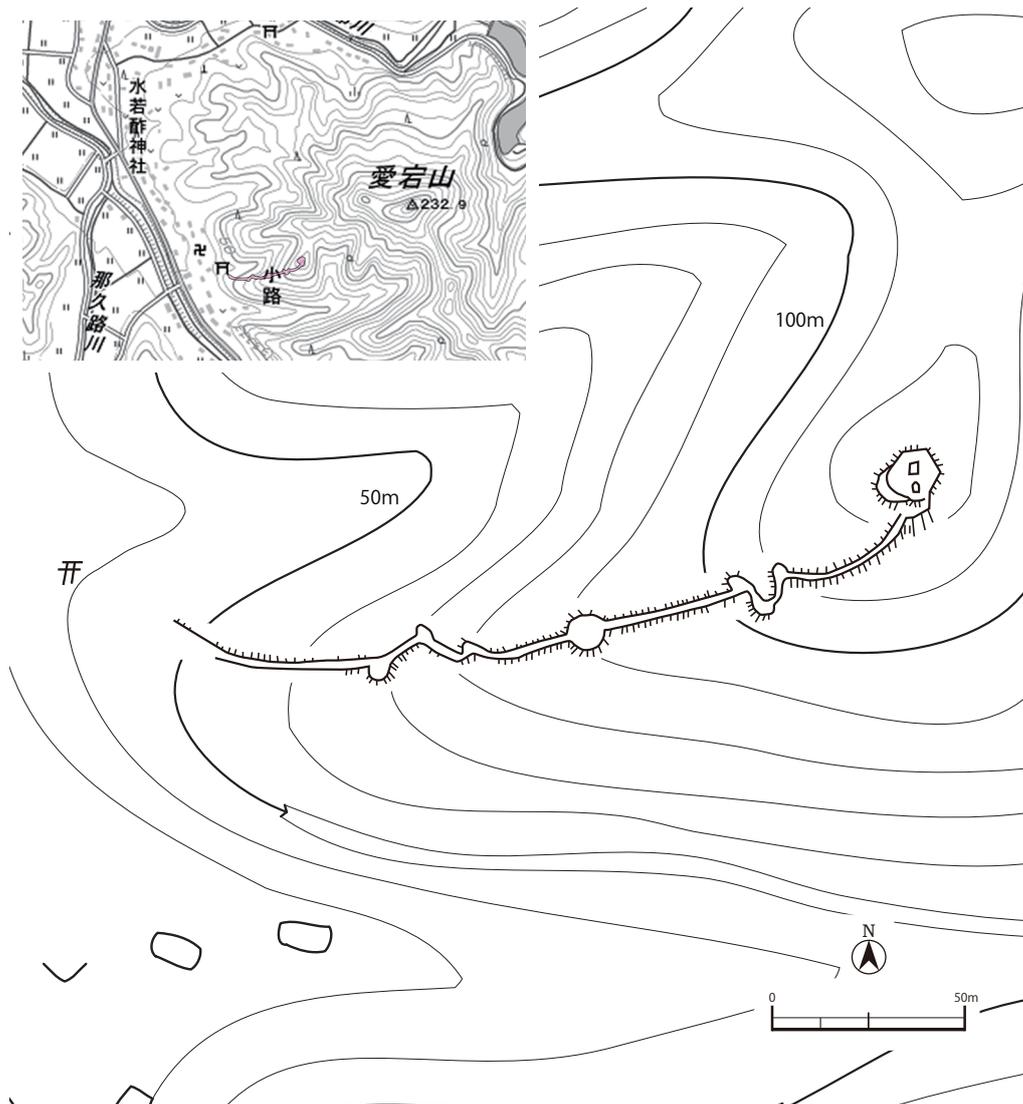
郡城と同様、過去の調査を参考に踏査を行ったが、山城跡と断定できる遺構は確認できていない。

③今回の調査結果を踏まえた所見

郡城とあわせて、愛宕山における山城の様相を、文献調査、現地調査の両面から検討する必要がある。

第 16 表 小路城跡の遺構一覧

過去の調査で確認された主な遺構	今回の調査で確認された主な遺構
曲輪 (狭い平坦地)	なし



第 16 図 小路城縄張図